

# 薬の伝言板 虫さされ



No. 225 2016年8月

丸子中央病院 薬局

虫さされは、とても日常的な皮膚病のひとつです。蚊、ブヨ、ハチなど、身近な虫が原因となることが多く、完全に予防することはなかなか難しいものです。

今回は、虫にさされたときの症状および治療法についてご紹介します。



## 虫さされとは？

虫にさされると、それぞれの虫に特有の毒成分や唾液に含まれる成分が私たちの皮膚に注入され、赤い発疹、かゆみ、痛みなどの炎症症状がみられます。

これらの物質によって生じるアレルギー反応が虫さされです。



## 虫にさされたらどうする？

虫にさされたら、

①その部分を洗い流して清潔にします。※ハチや毛虫の場合は、セロハンテープなどを軽く皮膚に当てはがし、残っている毒針や毒毛を取り除きます(あまり強くしないようにしましょう)。

②その後冷やし、できるだけ搔かずに、炎症を広げないようにしましょう。



## 虫よけ対策

- ★ **露出の少ない格好**・・・長袖長ズボン、首もストールや、日よけ付の帽子などでガードしましょう。ただし蚊は汗のにおいにつられてやってくるので汗をかいたらこまめに拭きましょう。
- ★ **虫除けで予防!**・・・直接肌に吹き付ける スプレーやクリームタイプ、腕に付けるリングタイプ、玄関や窓近くにぶら下げておくタイプなど種類もさまざま。どのタイプも子どもが直接成分を吸い込まないように注意しましょう。  
※日焼け止めと一緒に使う場合、先に日焼け止めを塗ってから、虫よけを塗るようにしましょう。
- ★ ダニやノミによる虫さされの予防は、部屋をきれいに**掃除**しておくことです。

## 虫さされに使う薬

虫さされに使われる塗り薬としては、かゆみを鎮めるための抗ヒスタミン剤と、炎症を抑えるステロイド外用剤が代表的です。



- かゆみを鎮める薬

**抗ヒスタミン剤**・・・ヒスタミンという体内物質の活動を抑えることでかゆみを鎮める薬です。虫に刺され症状が軽い場合は、外用抗ヒスタミン製剤を使います。

例：レスタミンクリーム

外用抗ヒスタミン製剤は、かゆみを軽減させることはできますが、かゆみの根本原因である炎症を抑えるはたらきはありません。炎症が悪化すれば、腫れやかゆみなどの苦痛が増し重症化することがあります。

- 炎症を抑える薬

**ステロイド外用剤**・・・炎症症状が強い場合に使います。

例：リドメックス、リンデロンV、トプシムローションなど

薬を塗る部位により、使う強さを変える必要がありますので、薬があるからといってむやみに使用しないようにしましょう。

子どもの虫さされにステロイド外用剤を使いたいという場合は、年齢と症状を伝えて薬剤師に相談すると安心です。



- アレルギー症状(アナフィラキシーなど)を抑える薬

**アドレナリン注射薬(エピペン)**・・・自己注射薬剤です。

ハチ刺されのアレルギー症状(特にアナフィラキシー)の進行を遅らせ、ショックを防ぐ補助治療剤です。この薬を使った場合は、その後必ず医療機関を受診する必要があります。

## 蚊が媒介する感染症

近年、蚊が媒介する感染症のニュースを耳にすることが多くなりました。

ジカ熱、デング熱は記憶に新しいところです。

これらの原因となるウイルスに対する薬、ワクチンは現在発売されていません。

感染してしまうと、対症療法のみしかありませんので、感染してからの治療よりも、蚊に刺されないための対策が重要です。



虫さされでも症状が強い場合は、内服薬の抗ヒスタミン剤やステロイド剤による治療が必要なこともあります。腫れがひどいときや、熱が出たときは病院を受診しましょう。

